

専門委員会開催報告

専門委員会名	第 14 回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成 27 年 9 月 15 日（月） 13:30～16:50
開催場所	株式会社アトックス技術開発センター(千葉県柏市高田 1201)
参加人数	18 名：上叢主査、浅見委員、今野委員、奥野委員、助川委員、奥村委員、小川委員、坪井委員、糸賀委員、中田委員、平山委員、黒澤委員、中根委員、坂本委員、中村委員
議 事	<p>1. アトックス技術開発センターの見学 加藤センター長によるアトックス技術開発センターの概要説明の後、下記施設及び装置について見学を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原子炉ウェル模擬施設 ・ ウェル壁面除染装置 ・ 原子炉建屋床面遠隔除染装置 RACCOON ・ 高線量空間内における遠隔操作ロボットと操作訓練施設 ・ 廃炉用切断解体装置 ・ プラスト除染装置 ・ ガンマ線照射施設 (60Co: 約 1PBq) <p>2. 主査挨拶 遮蔽ハンドブック基礎編の販売状況について、以下のように報告された。前回委員会で報告された 100 部の増刷分 (2 刷) について 8 月末に完売したので、3 刷を行っているところである。これはもうすぐ仕上がる予定である。</p> <p>3. ICRS13-RPSD2016 の International Advisory Committee メンバーの推薦 標題について、中村委員から日本から 9 人推薦することの確認があった。主な役割は、Call for paper を配布し国際会議への参加者を募ることである。メンバーは 9 月中に事務局へ連絡する。</p> <p>4. 遮蔽ハンドブック (応用編) に記載する内容検討 (SH14-3) 上叢主査から標記について説明があり、遮蔽ハンドブック (応用編) に記載する内容を議論した。主なコメント及び審議決定事項は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6.4 節「中間貯蔵施設」という言葉は、現在においては福島に関連して意味が変わってしまっているため、「使用済燃料中間貯蔵施設」とすることに決定。 ・ 工業用リニアックの設計事例については、一般的な点減衰核法によるものであり、特徴的な遮蔽設計を行っているわけではないため、内容に含めないことに決定。 ・ 低レベル放射性廃棄物等の廃棄物施設の遮蔽設計については、6.6 節を「廃炉及び廃棄物」として含めることに決定。なお、例えば高レベル放射性廃液についての詳細は公開されていないことから具体例を示すことはでき

	<p>ない。そのため、廃棄物施設全ての設計事例について網羅はできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7.4 節「粒子線治療施設」の後の 7.5 節を加速器 BNCT の内容にすることに決定。原稿執筆は京大炉の丸橋氏に依頼(中村委員経由)。7.6 節以降は、現在案の 7.5 節以降に従う。 ・ 新規性のある計算手法として、ベルギーの SCK/GEN が開発している VISIPLAN コードの概要を 4.6 節「今後の開発」の内容に含めることに決定。原稿執筆は中田委員。 ・ 2 章及び 6 章の取りまとめは、中田委員及び黒澤委員に決定。 ・ 7 章の取りまとめは、奥野委員に決定。 ・ 4.1 節「はじめに」の執筆は、奥村委員に決定。 ・ 7.1 節「RI 工業利用施設」の執筆者は、RI 工業利用施設について実際に経験のある人が担当すべきであることから、滅菌技術について知見を有する大石委員に依頼(中村委員経由)。 <p>5. 今後の予定</p> <p>次回会合は 12 月を予定。次回の講演は、他章節執筆者との情報共有を目的として、執筆内容に関する内容を含めたものとする。発表者は今野委員を予定。また、来年度の本研究専門委員会の新名称について“「遮蔽ハンドブック応用編」研究専門委員会”とするのはどうか、とする意見があった。</p>
備 考	

平成 27 年 9 月 30 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第 13 回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成 27 年 6 月 15 日（月） 13:30～16:00
開催場所	国立研究開発法人理化学研究所 東京連絡事務所
参加人数	18 名：上叢主査、浅見幹事、今野幹事、坂本幹事、糸賀委員、岩下委員、植木委員、小川委員、奥野委員、奥村委員、黒澤委員、坂本委員、佐藤委員、助川委員、中田委員、中根委員、根本委員、平山委員
議 事	<ol style="list-style-type: none">1. 委員交代について 三菱重工の森島委員が社内の人事異動に伴い委員を辞任され、後任として三菱重工の小川氏が委員になられる旨のアナウンスがあった（原子力学会企画委員会承認済み）。また、東芝の郡司委員が原子力機構の臨界安全部に移られ、委員継続、原稿執筆は難しいとの報告もあった。2. 遮蔽ハンドブック応用編に記載する内容について 記載内容を議論。種々のコメントがあり、それらを踏まえて、目次案、出席委員の執筆希望箇所を改定。欠席された委員には、後日、議事録案送付の際に、執筆希望箇所を確認することにした。3. その他連絡事項 次回会合は9月を予定。アトックス（柏）の施設見学も行う。
備 考	